

入り口・一次アセスメント リスタート・地域若者サポートステーション

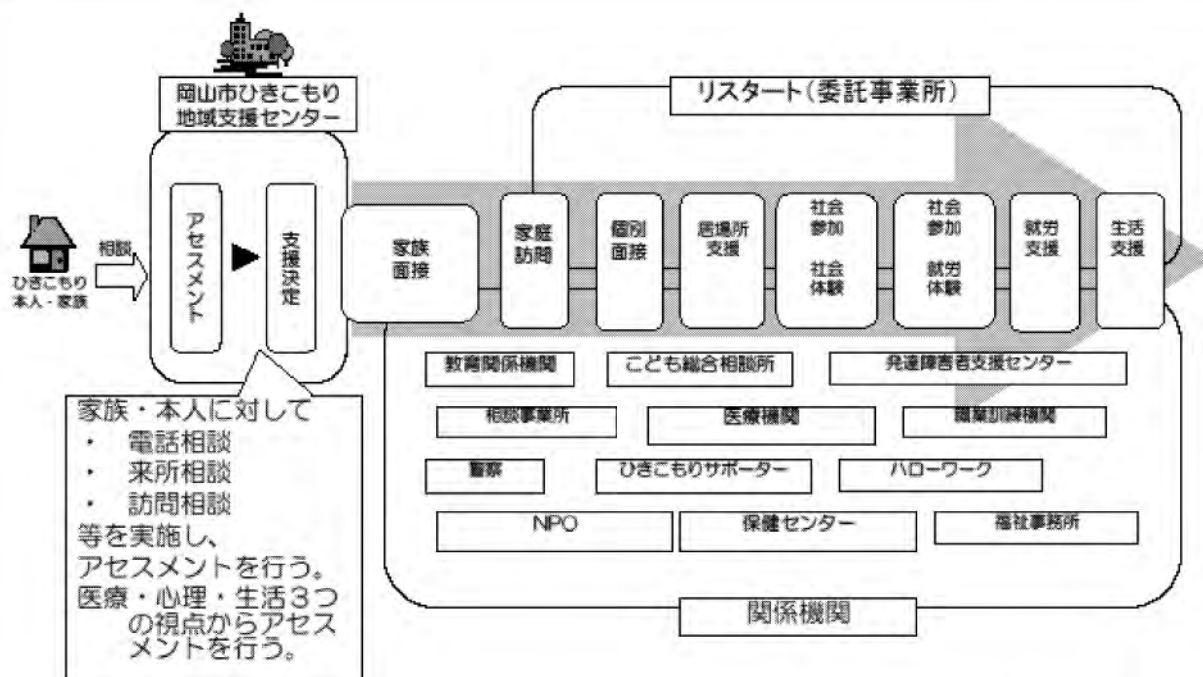
- 入り口(第1コンタクト)
- 家族約8割、関係者約2割(最終承諾は家族)、本人0割
※関係者：親戚・先生・保健師・民生委員・行政など
- リスタートへの相談
 - 有料支援
 - 契約書・訪問依頼書・支援計画書作成
 - 当事者についての聞き取り、依頼者ニーズ
- 地域若者サポートステーションへの相談
 - 無料支援(2回まで。その後リスタート相談へ繋ぐ)
 - 地域若者サポートステーション登録・支援計画作成
 - 当事者についての聞き取り、依頼者ニーズ

入り口・一次アセスメント ひきこもり支援センター

- こころの健康センターが入り口・1次アセスメント
(当事者・家族等からの電話・来所・訪問等による相談に応じるとともに対象者の状況に応じて、医療・教育・労働・福祉などの適切な関係機関へつなげる)
 - 臨床心理士と精神保健福祉士のペアで訪問
 - ひきこもり相談：家族約7割
 - ひきこもり性別：男性約8割、年代：30代までが約8割
 - 精神科治療歴、不登校・受検失敗の経験、家族と同居の人が多い
 - 電話相談・来所相談・訪問相談等を実施し、医療・心理・生活3つの支店からアセスメントを行う
- ⇒ひきこもり支援センター(リスタート)へ繋ぐ

【参考】岡山市ひきこもり対策推進事

概念図



アウトリーチ前の準備段階

- ❑ ① 情報の収集とそれを通じた関係づくりを行う
- ❑ ② 訪問の達成目標を明確に設定しておく
- ❑ ③ 訪問することを事前に家族や当事者に伝える
- ❑ ④ 訪問の適切なセッティングを工夫する
- ❑ ⑤ 関係機関との情報交換

アウトリーチ開始に向けた家族との準備

- 生まれてから現在までの成長の経過
- 保育園や幼稚園、小学校、中学校、高校などの各段階における友人関係や集団への適応
- 大人達との関係の特徴
- 現在までの相談や治療歴、当事者の現在の日常生活、日頃の言葉や行動の特徴
- 当事者が好んでいる趣味、あるいは特技
- 身だしなみや外観、家族との交流の様子、部屋の状態、居住地の環境

訪問時に心得ておくべきこと

- 支援者は自分が何者で、何の目的で家庭訪問をしたのかを伝える
- 積極的傾聴を心掛ける
- 当事者の言葉、当事者の身だしなみや外観、家族との関係性、部屋の状態、居住地の環境などを具体的に評価し、当事者の全体像をある程度把握する
- 事前の情報収集の内容が会話の中心になり、当事者に不信任感を与えないようにする
- 当たり障りのない面接に終止してしまわないようにする
- 長い面談にならないよう気をつける
- 次回訪問の日時を決め、当事者と家族に伝える

アウトリーチから各支援プログラムへ

- 地域若者サポートステーションプログラム
 - 月～金 擬似通勤型プログラム
 - コミュニケーション、職業疑似体験、ボランティア、スポーツ、就業支援、相談、居場所
- 若年無業者等集中訓練プログラム事業
 - 30日間の合宿型プログラム
 - 共同生活、健康管理、金銭管理、職場体験、就業支援
- 共同生活
 - 共同生活をしながら様々なプログラムに参加
- ひきこもり支援センタープログラム
 - 地域若者サポートステーションプログラムと同様の内容

各支援からの自立に向けた動き

- プログラムでコミュニケーションスキルを向上させ、他社との関わりに自信をつける(ボランティアなど…)
- 集団生活で生活スキルや協調性や積極性を学ぶ。
- 集中訓練の職場体験で実践的な仕事について学ぶ
- 相談やプログラムで就労支援を受ける
 - 自己分析、履歴書・職務経歴書指導、面接練習など…
- 期限付き雇用でリスタートの仕事に就いて仕事をする
自信と経験を積み重ねて…

自立